

対人コミュニケーション

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：私たちは他者とのコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ること、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチする。

■**到達目標**：①コミュニケーションという営みについての基本的な理論を学ぶ。
②身近なコミュニケーション行動をその知識を基に観察または内省する。
③①と②を自らのコミュニケーションに適用し、より豊かなコミュニケーションの担い手となる。

■**担当教員**：

町田 佳世子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 コミュニケーションとは何か
- 第 2 回 コミュニケーションの過程と構成要素
- 第 3 回 自己概念
- 第 4 回 自己評価と対人コミュニケーションへの影響
- 第 5 回 自己呈示
- 第 6 回 ことばがことを行う：発話行為
- 第 7 回 会話を成り立たせる原理：会話の公理と含意
- 第 8 回 間接派と直接派：何が相手への配慮なのか
- 第 9 回 対人コミュニケーションスタイル：心理的距離
- 第10回 対人コミュニケーションスタイル：力関係
- 第11回 対人コミュニケーションスタイル：InvolvementとIndependence
- 第12回 非言語コミュニケーション：人は全身でコミュニケーションしている(1)
- 第13回 非言語コミュニケーション：人は全身でコミュニケーションしている(2)
- 第14回 働きかけのコミュニケーション：アドバイスはきらわれる？
- 第15回 コミュニケーション・トレーニング

■**教科書**：毎回授業中にハンドアウトを配布する

■**参考文献**：授業中に随時指示する

■**成績評価基準と方法**：授業内の発表と期末レポート（定期試験に代える）の結果により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎			内容を理解した上で、的確な内省と観察を行っている。これまでの理論や報告に対して多角的な視点で考察している。	80
授業内の発表		◎	○	趣旨を理解した上で、的確なディスカッションや応答をすることが求められる。	20
授業態度		◎	○	ハンドアウト上の質問への回答状況 ディスカッションへの参加	0
発表					
課題・作品					
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：対人コミュニケーションについて一緒に考えるという気持ちで受講することを望む。